

# ルーマニア語における子音結合について

田 中 春 美

## § 1 はじめに

現代ロマン諸語のうちで、ルーマニア語は地理的にも言語的にもひじょうに特異な面を示している。歴史的に見れば、それは他のロマン語との地域的隔絶、スラブ語を代表とする隣接異民族の言語的影響などの結果であると考えられよう。この小論では、その一つの面を例証するために、ルーマニア語における子音結合の特異性を観察してみたい。他の代表的ロマン語（たとえばフランス語・イタリア語・スペイン語など）との比較は、この特性をいっそう浮きぼりするのに役立つだろうが、紙面の関係で次の機会にゆずることにする。

Leonard Bloomfield を先駆とする、いわゆるアメリカの構造言語学の考えに従えば、ある言語の音相の研究（かりに広義の phonology と呼んでおく）は、次の三つの分野を含む。すなわち、音の生理的・物理的特徴を対象の中心とする phonetics、その言語における意味識別の手がかりとなる最小単位（すなわち phoneme）を扱う phonemics、そしてその言語における phoneme どおしの結合様式を主題とする phonotactics である。この小論は明らかに第三の分野、すなわち音素結合論に属するわけだが、必要上まず最初にルーマニア語の phonemics について触れなければならぬ。

## § 2 ルーマニア語の音素体系

直接この小論と関係はないが、参考のため母音音素も一応述べておく。特殊な音素にかぎり、その代表的具体音を IPA で記すことにする。

- /i/ : ici (ここ), din (から)
- /e/ : elev (生徒), de (の)
- /ə/ : către (のほうへ), să (ということ)
- /a/ : așa (そのように), sat (村)
- /i/ [w] (注1) : în (中に), urî (にくむ), român (ルーマニアの)
- /u/ : unul (ひとつ), cu (とともに)
- /o/ : acolo (そこ), cot (ひじ)

二重母音・三重母音の組み合わせは複雑で、いろいろな問題を含むから、ここでは省略する。子音音素としては次のものが認められる。

---

(注1) 音声学的名称は非円唇後舌高母音。日本語の「ウ」に近いが、舌の位置はやや高く、張唇である点が異なる。

- /p/ : pa<sup>u</sup>p (にかわ), a<sup>u</sup>pă (水)  
 /b/ : ba<sup>u</sup>bă (老女), cui<sup>u</sup>b (巢)  
 /t/ : ta<sup>u</sup>tă (父), pa<sup>u</sup>t (寝台)  
 /d/ : du<sup>u</sup>d (桑の木), oda<sup>u</sup>ie (部屋)  
 /k/ : co<sup>u</sup>cor (鷓), lac (湖)  
 /g/ : go<sup>u</sup>goa<sup>u</sup>șă (ドーナツ), fa<sup>u</sup>ș (かばの木)  
 /c/[ts] : ta<sup>u</sup>ră (国), so<sup>u</sup>ț (夫)  
 /č/[tʃ] : ce (なに?), ai<sup>u</sup>či (ここ)  
 /j/[dʒ] : gi<sup>u</sup>ngie (ゴム), ni<sup>u</sup>șe (雪が降る)  
 /f/ : fe<sup>u</sup>l (様式, 習慣), șe<sup>u</sup>f (首領)  
 /v/ : va<sup>u</sup>l<sup>u</sup>vă (弁), vă<sup>u</sup>du<sup>u</sup>v (男やもめ)  
 /s/ : so<sup>u</sup>s (ソース), ma<sup>u</sup>să (机)  
 /z/ : zî<sup>u</sup>zî<sup>u</sup>i (うなる), vâ<sup>u</sup>z (視界)  
 /ð/[f] : șa<sup>u</sup>se (六), ora<sup>u</sup>ș (町)  
 /ž/[ʒ] : jo<sup>u</sup>c (遊び, スポーツ), cu<sup>u</sup>raj (勇気)  
 /h/ : ho<sup>u</sup>hot (大声), du<sup>u</sup>h (魂)  
 /m/ : mu<sup>u</sup>mie (ミイラ), cu<sup>u</sup>m (いかに?)  
 /n/ : ne<sup>u</sup>bun (狂った), lu<sup>u</sup>nă (月)  
 /l/ : la<sup>u</sup>lea (チューリップ), țol (インチ)  
 /r/ : ra<sup>u</sup>r (稀な), gu<sup>u</sup>ră (口)

半母音 /j, w/ を認めるか否かは、二重母音の解釈や、各子音 (C) に口蓋化音 (ç) および唇化音 (C<sub>w</sub>) を対立させるかどうかにかかっているため、ここでは保留しておく。詳しくは Petrovici の論文などを参照のこと。(注2)

### § 3 語頭における子音結合

ルーマニア語における語頭子音結合には、C<sub>2</sub>C<sub>1</sub>- と C<sub>3</sub>C<sub>2</sub>C<sub>1</sub>- の二種類がある。便宜上この二つを別々に考察する。

C<sub>2</sub>C<sub>1</sub>- には次のようなものが見られる。統計は最新の小辞典による。(注3)

- /ps-/ : psalm (聖歌) など12例  
 /pl-/ : plăcere (好む) など149例  
 /pr-/ : privi (見る) など516例  
 /bl-/ : bluză (ブラウス) など22例  
 /br-/ : brânză (チーズ) など69例

(注2) Petrovici, Phonemsystem (下記) とその書評 (F. B. Agard & G. H. Fairbanks, review of Petrovici, Language XXXIV, pp. 297-303); Petrovici の本国で出版された論文 (下記) など。

(注3) Andronescu, Dicționar (下記)。

- /tr-/ : *trei* (三) など 288例
- /dr-/ : *drum* (道, 旅) など 43例
- /ks-/ : *xilofon* (木琴) など 6例
- /kl-/ : *clipă* (瞬間) など 80例
- /kr-/ : *crin* (百合) など 105例
- /gl-/ : *glas* (声) など 26例
- /gr-/ : *greu* (重い, 困難な) など 103例
- /fl-/ : *floare* (花) など 47例
- /fr-/ : *frig* (寒さ) など 76例
- /vl-/ : *vlagă* (活力) など 5例
- /vr-/ : *urea* (望む) など 24例
- /sp-/ : *spate* (背中, うしろ) など 110例
- /st-/ : *stea* (星) など 161例
- /sk-/ : *scurt* (短い), *schimb* (変化) など 183例
- /šč-/ : *scenă* (舞台, 風景) など 20例
- /sf-/ : *sfânt* (聖なる, 聖者) など 48例
- /sm-/ : *smulge* (引き抜く) など 24例
- /sn-/ : *snop* (一束) など 5例
- /sl-/ : *slab* (やせた) など 23例
- /zb-/ : *zbura* (飛ぶ) など 29例
- /zg-/ : *zgomot* (音) など 17例
- /zv-/ : *zvon* (噂) など 11例
- /zm-/ : *zmeu* ~ *smeu* (籠) など 4例
- /šp-/ : *șperț* (賄賂) など 5例
- /št-/ : *ști* (知る) など 22例
- /šk-/ : *școală* (学校) など 7例
- /šf-/ : *șfichi* (むち) など 2例
- /šv-/ : *șvarț* (クリームを入れないコーヒー) など 4例
- /šm-/ : *șmecher* (ずるい) など 2例
- /šn-/ : *șnur* (ひも) など 2例
- /šl-/ : *șlefui* (みがく) など 3例
- /hr-/ : *hrană* (食物) など 7例
- /ml-/ : *mlădios* (しなやかな) など 6例
- /mr-/ : *mreață* (魚網, わな) など 2例

この他に、特殊な外来語などに見られる次のような子音結合がある。語原的に (注4)

(1)ギリシャ語・ラテン語に由来するもの、(2)ゲルマン諸語に由来するもの、(3)スラブ諸語に由来するもの、(4)擬声語、と四種類に分けられる。

---

(注4) Cioranescu, *Diccionario* (下記) と Cihac, *Dictionnaire* (下記) による。

- (1) /pn-/ : *pneumonie* (肺炎) など3例  
 /kt-/ : *ctitor* (創立者) のみ  
 /kv-/ : *cvartet* (四重奏) のみ  
 /ft-/ : *ftizie* (消耗) のみ
- (2) /pf-/ : *pfund* (ポンド) のみ  
 /sv-/ : *sveter* (セーター) のみ
- (3) /kn-/ : *cnut* (皮むち) のみ  
 /zl-/ : *zloată* (みぞれ) のみ  
 /žd-/ : *jder* (てん) のみ  
 /žg-/ : *jgheab* (樋) のみ
- (4) /ph-/ : *phii* (はいどう!) のみ

次に  $C_3C_2C_1$ - には次のようなものが見られる。

- /spl-/ : *splină* (脾臓) など3例  
 /spr-/ : *spre* (のほうへ) など7例  
 /str-/ : *striga* (叫ぶ) など84例  
 /skl-/ : *sclav* (奴隷) など13例  
 /skr-/ : *scrie* (書く) など41例  
 /sfr-/ : *sfriji* (うすくなる) など6例  
 /štr-/ : *strand* (プール) など5例  
 /zdr-/ : *zdrobi* (くだく) など9例  
 /zgr-/ : *zgribuli* (ふるえる) など5例

スラブ系の特殊な外来語に次のものがある。

- /zgl-/ : *zglobiu* (快活な) のみ

#### § 4 語末における子音結合

語中の子音結合については、音節の切りかたという複雑な問題がからみあうため、すべての人が納得する結論を出すことはひじょうに困難であるから、この小論では省略せざるを得ない。

語末においては、語頭と同じように、 $-C_1C_2$  と  $-C_1C_2C_3$  の二種類がある。

$-C_1C_2$  には次のようなものが見られる。特殊な外来語も一応含めておく。

- /-pt/ : *opt* (八) など19例  
 /-ps/ : *mops* (ちん的一种) など4例  
 /-bt/ : *dedesubt* (下に, 秘密) のみ  
 /-tm/ : *ritm* (リズム) など2例  
 /-kt/ : *fruct* (果物) など43例  
 /-ks/ : *lux* (ぜいたく), *cocs* (コークス) など22例  
 /-gn/ : *regn* (王国) のみ  
 /-ft/ : *moft* (くだらないこと) など4例  
 /-vn/ : *cloun* (道化) のみ

- ／-st／ : *vest* (西) など 151 例
- ／-sk／ : *pisc* (頂上) など 80 例
- ／-sm~-zm／ : *spasm* (けいれん) など 139 例
- ／-zd／ : *ghizd* (馬具の一種) のみ
- ／-šk／ : *chiosc* (納涼亭) のみ
- ／-žd／ : *grajd* (馬小屋) のみ
- ／-ht／ : *iaht* (ヨット) など 2 例
- ／-mp／ : *timp* (時間) など 6 例
- ／-mb／ : *porumb* (とうもろこし) など 8 例
- ／-mt／ : *strîmt* (狭い) のみ
- ／-mc／ : *simt* (感覚) など 3 例
- ／-mf／ : *triumf* (勝利) のみ
- ／-mn／ : *somn* (眠り) など 12 例
- ／-nt／ : *cînt* (歌) など 336 例
- ／-nd／ : *cînd* (の時に) など 27 例
- ／-nk／ : *adînc* (深い) など 11 例
- ／-ng／ : *lung* (長い) など 23 例
- ／-nc／ : *print* (王子) など 7 例
- ／-ns／ : *dens* (密集した) など 32 例
- ／-nz／ : *prînz* (食事) など 3 例
- ／-ns／ : *etans* (びったりした) のみ
- ／-nz／ : *oranj* (オレンジ) など 2 例
- ／-lp／ : *stîlp* (柱) など 2 例
- ／-lb／ : *alb* (白い) など 2 例
- ／-lt／ : *alt* (他の) など 17 例
- ／-ld／ : *cald* (あたたかい) など 6 例
- ／-lk／ : *tîlc* (意味) など 6 例
- ／-lg／ : *fulg* (羽毛) など 2 例
- ／-lc／ : *colt* (隅, 角) など 7 例
- ／-lf／ : *golf* (ゴルフ) など 2 例
- ／-ls／ : *fals* (いつわりの) など 5 例
- ／-lz／ : *solz* (うろこ) のみ
- ／-lm／ : *ulm* (けれの木) など 4 例
- ／-rp／ : *corp* (からだ) など 3 例
- ／-rb／ : *corb* (からす) など 13 例
- ／-rt／ : *sfert* (四分の一) など 36 例
- ／-rd／ : *surd* (つんぼの) など 25 例
- ／-rk／ : *porc* (豚, 豚肉) など 8 例
- ／-rg／ : *larg* (広い) など 7 例
- ／-rc／ : *sort* (運) など 9 例
- ／-rf／ : *vîrf* (頂上) など 4 例

- ／-rv／： *neru* (神経) など3例
- ／-rs／： *urs* (熊) など17例
- ／-rz／： *orz* (大麦) など3例
- ／-rš／： *marš* (行進) など2例
- ／-rž／： *serj* (サージ) のみ
- ／-rh／： *monarh* (独裁君主) など2例
- ／-rm／： *ferm* (堅固な) など10例
- ／-rn／： *corn* (角, 角笛) など15例

以上のうち、いくつかのものは屈折語尾や派生語尾を含むため、実例数がひじょうに多い。主なものを取り出してみると、次のようになる。

- ／-ist／(名詞語尾)： *viorist* (バイオリンひき) など106例
- ／-esk／(形容詞語尾)： *românesc* (ルーマニアの) など68例
- ／-izm／(名詞語尾)： *budism* (仏教) など134例
- ／-ant／(名詞・形容詞語尾)： *participant* (相棒) など90例
- ／-ent／(名詞・形容詞語尾)： *dependent* (従属的) など95例
- ／-ment～-mînt／(名詞語尾)： *guvernămînt* (政治) など81例
- ／-înd／(現在分詞)： *crescînd* (増大する) など3例
- ／-ins～îns／(過去分詞)： *stîns* (消えた) など16例

次に  $-C_1 C_2 C_3$  には次のようなものがある。

- ／-kst／： *text* (テキスト) など4例
- ／-stm／： *istm* (地峡) のみ
- ／-mpt／： *prompt* (敏速な) のみ
- ／-nkt／： *punct* (点) など9例
- ／-nks／： *linx* (山猫) のみ

## § 5 ま と め

以上の考察を通して気がつきたいいくつかの点を挙げてみる。

(1) 語頭の二子音連結においては、閉鎖音 (*p, t, k, b, d, g*) と鳴音 (主として *l, r*) の組み合わせ、および歯擦音 (*s, š, z, ž*) と他の音の組み合わせが圧倒的に多く、使用頻度<sup>(注5)</sup>も高い。それ以外の組み合わせは比較的稀で、使用頻度が低い。

(2) ただし、*tl-, dl-* の結合が語頭において見られないこと、また逆に歯擦音と *r* の結合がまったく欠けていることは、目立った点である。ことに前者は英語にも同じ現象が見られるので、<sup>(注6)</sup>あるいは多くの現代欧州語に共通しているのかもしれない。

(3) 語頭三子音結合はいずれも「歯擦音+閉鎖音+鳴音」という配列に従っている。これ

(注5) ここで言う使用頻度は辞書類における語数であって、各語の実際の使用頻度はまた別の問題である。

(注6) 太田「米語音素論」(下記)などを参照のこと。

も英語に類似した現象が見うけられる。(注6)

(4) 以上の語頭子音結合のうち、かなりの数がスラブ語、特にロシア語から借用されたものであり、ルーマニア語の聴覚的印象の特異さに大きな影響を与えている。すでに述べた組み合わせ以外にも、vl-, zg-, hr-, ml- などの例が挙げられる。

(5) 語頭に比べて語末の子音結合様式は多様で、法則性を見出すことがややむずかしいが二子音結合では鳴音 (l, r の他に鼻音 m, n も含む) を第一要素 (-C<sub>1</sub>) とするものが圧倒的に多い (全体の 0.724%)。しかし語頭の場合とちがって、その逆 (鳴音を第二要素とするもの) の組み合わせはない。(注7)

(6) 語末の三子音結合は少数 (五種) な上、結合様式が複雑なため、法則性は見出せない。しかし、その内部構成が -C<sub>1</sub>C<sub>2</sub>, C<sub>2</sub>C<sub>3</sub> いずれを取っても、二子音結合の可能性の枠内に限られていることは注意すべきである。

(7) 最後に、語頭と語尾の結合例を個々につき合わせてみると、同じ組み合わせを示すものはきわめて少ないことが分る。使用頻度の点から考えて、双方とも外来語などの特殊な言語意識なしに使われるものは st, sk (ただし sp は語末で欠如) の二つしかない。sm は特に語末において有声化 (-zm) するので、はたして同一と言えるかどうか疑問である。その他の組み合わせ (ps, kt, ks, ft, šk, žd) は、一方あるいは双方とも外来語など特殊なものである。

#### ◇ 参 考 書 目 ◇

音素結合論一般について

A. A. Hill, Introduction to Linguistic Structures. New York (Harcourt, Brace), 1958 pp. 68-88 (chapt. 6)

太田 朗「米語音素論」 研究社, 1959 pp. 144-166 (chapt. 8)

M. Yasui, Consonant Patterning in English. Kenkyusha, 1962. v-124 p.

ルーマニア語音声学・音素論について

G. Nandriș, Colloquial Rumanian. London (Routledge & Kegan Paul), 1953<sup>2</sup>. xx-340 p.

E. Petrovici, Sistemul fonematic al limbii române. Studii și cercetări lingvistice VII (1956), pp. 7-20.

F. B. Agard, Structural Sketch of Rumanian. Language Monograph XXVI, 1958 127 p.

ルーマニア語音(素)の歴史について

E. Petrovici, Kann das Phonemsystem einer Sprache durch fremden Einfluss umgestaltet werden?

's-Gravenhage (Mouton), 1957. 44 p.

---

(注7) ただし動詞の活用形 azvîrl (azvîrli の直接法現在一人称単数) などに例外が見られる。

O. Nandris, *Phonétique historique du roumain.*  
Paris (Klincksieck), 1963 xxii-321 p.

ルーマニア語の語彙について

Ş. Andronescu, *Dicţionar de buznar : romîn-englez.*  
Bucureşti (Editura Ştiinţifică), 1961 x-287 p.

A. R. P. R. (=Academia Republicii Populare Române),  
*Dicţionarul limbii române literare contemporane.*  
Bucureşti (Editura A. R. P. R.), 1956-57. 4 vols. 各巻とも  
700頁前後。

ルーマニア語の語原辞典

A. de Cihac, *Dictionnaire d'étymologie daco-romane :*  
*Éléments latins.* Francfort s/M (Ludolphe St. Goar),  
1870. xii-332 p.

A. Cioranescu, *Diccionario Etimológico Rumano.*  
Tenerife, Espana (Universidad de La Laguna)-Madrid  
(Gredos), 1958-1961 918 p.

(立教大学 助教授)